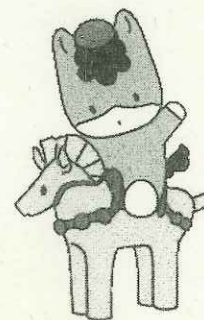


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

私のまちの東国文化「発見」
なせ伊勢崎市にはたくさんの古墳があったのな

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2 組 14 番

氏名 須藤 匠

テーマ

私のまちの東国文化

～なぜ伊勢崎市にはたくさんの古墳があったのか？～

1. 調査の目的、動機

群馬県に古墳大国といわれているが、自分の住む伊勢崎市にも 1000 基以上あったと記録されている。

今まで自分の住む町の歴史や、古墳についてあまり知らなかったが、東国文化について学習するうちに興味がわき調べてみたくなった。

2. 調査方法

①実際に古墳や資料館に行って展示物を見たり、学芸員の方に話を聞いて調査をする。

- ・伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館
- ・お富士山古墳

②インターネットを使って調査をする。

③資料本を読んで調査をする。

3. 調査をする際に気を付けた事

テーマに沿った資料を読んで、自分なりに仮説を立てたりしてより深く理解できるようにした。

なぜ伊勢崎市には
たくさんの古墳が
あったのかな？



仮説1 伊勢崎市にはヤマト王権とつながる有力者がいた？

古墳時代を中心に、現在の関東地方で栄えた文化を「東国文化」と言う。

当時の日本は近畿地方が政治・経済・文化の中心地であった。

古墳時代の群馬県地域は「上毛野国」（かみつけぬのくに）と呼ばれ、東日本随一の大国であった。

群馬県は、大きな古墳がたくさんある。古墳は、力のある豪族のお墓と考えられていることから、勢力を有する豪族がたくさんいたことがうかがえる。

伊勢崎市でも、1000基を超える古墳がつくられた。

また、「前方後円墳」が作られていたことから大和王権とのつながりがうかがうことができる。

【伊勢崎市の市指定史跡（古墳）】

形状	名称	よみがな	世紀	所在地	指定日
前方後円墳	お富士山古墳	おふじやまこふん	5	安堀町	昭和41年
円墳	鶴巻古墳	つるまきこふん	6	東小保方町	昭和44年
前方後円墳	十二所古墳	じゅうにしよこふん	不明	磯町	昭和46年
円墳	雷電神社古墳	らいでんじんじゃこふん	6	境伊与久	昭和52年
前方後円墳	丸塚山古墳	まるづかやまこふん	5	三和町	昭和52年
前方後円墳	庚塚古墳	かねづかこふん	6	下触町	平成7年
前方後円墳	一ノ関古墳	いちのせきこふん	6	本関町	平成10年
前方後円墳	赤堀茶臼山古墳	あかぼりちやうすやまこふん	5	赤堀今井町	平成16年



赤堀茶臼山古墳
伊勢崎市 HP より



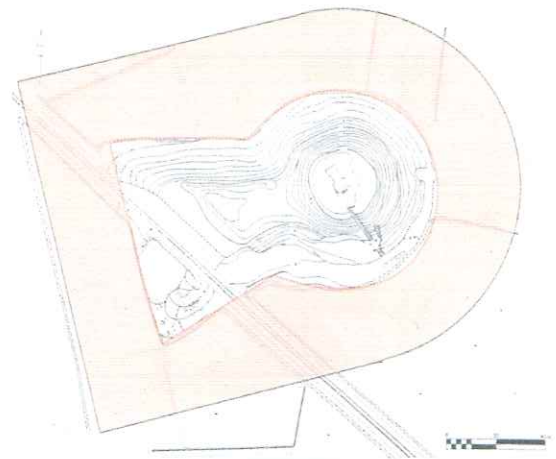
一ノ関古墳
伊勢崎市 HP より

なかでも、注目すべきなのは『お富士山古墳』である。
 お富士山古墳は、市内で最も大きな前方後円墳である。
 墳丘の全長は125メートルあり、県内で8番目の大きさである
 墳丘のまわりには幅の広い周溝が掘られており、周溝を含めた長さは192
 メートルである。



※伊勢崎市文化財に関する
 リーフレットより

お富士山古墳



お富士山古墳実測図（『群馬県史』資料編3による）

伊勢崎市のシンボル
 華蔵寺公園の観覧車
 よりも大きかったんだね！

「お富士山古墳」で最も注目すべきなのは、【長持形石棺】である。

「お富士山古墳」の長持形石棺は、全長 285 c m、幅 121 c m、高さ 115 c m、重さ約 6.8 t で、地元の石を使ってヤマト王権御用達の工人の手で作成されたものである。

【長持形石棺】は全国で 50 例ほど確認されているが、石棺は「王者の棺」と呼ばれ、その多くは畿内のヤマト王権を代表する大王の古墳などに用いられた。

関東地方では、伊勢崎市の「お富士山古墳」と太田市の「天神山古墳」のほか千葉県で 2 例知られているだけである。

このことから、「お富士山古墳」は大和政権と強い政治的なつながりをもったこの地域を治めた首長のお墓と考えられる。



お富士山古墳の長持形石棺



お富士山古墳の頂上からの景色

実際に「お富士山古墳」に登って頂上から景色を眺めてみると、周囲の山を一望できて、ここに古墳を作った意味が少しわかったような気がした。自分の住むまちに、こんなに貴重な遺跡があることにとっても感動した。



お富士山古墳の長持形石棺
伊勢崎市 HP より



伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

その他にも・・・

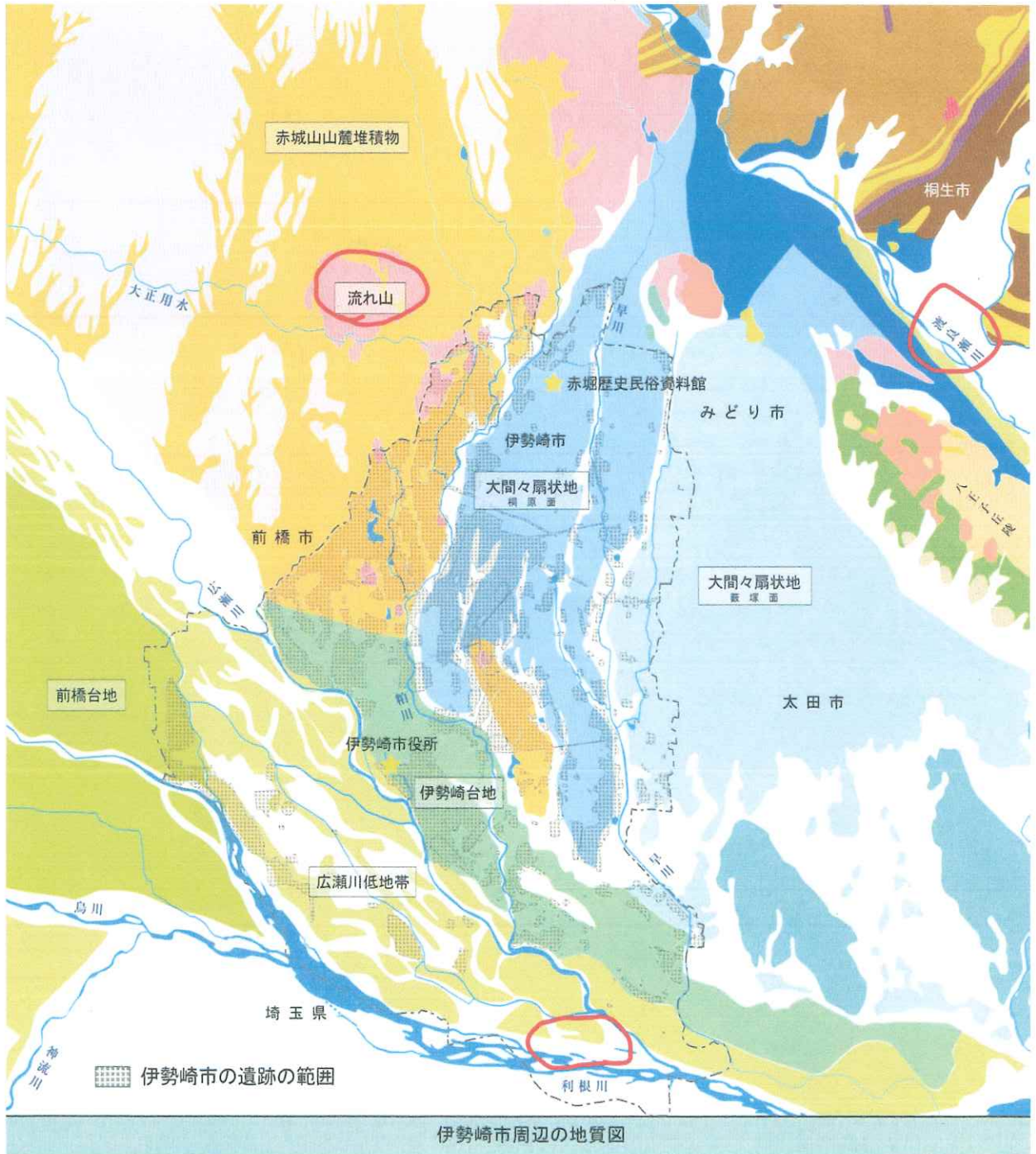


釜ノ口遺跡出土の家形埴輪

赤堀茶臼山古墳の南約3kmにある釜ノ口遺跡
出土の家形埴輪

古墳は埴輪の特徴から5世紀中ごろにつくられたと考えられているが、同時期の群馬県でこれほど家形埴輪をはじめとした形象埴輪が出土した古墳は珍しく、作りも非常に精巧である。当時の日本の中心であるヤマト王権の埴輪生産の担当者が赤堀茶臼山古墳の埴輪生産に関わっていた可能性もある。

仮説2 伊勢崎市の場所や地形の特徴と関わりがある？



※1 伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館展示リーフレットより

※1の地図を見てみると、伊勢崎市は、北は標高163mの赤城南麓から、南は標高38mの利根川まで、南北にやや長く丘陵や河川など自然地形の起伏に富んでいる。

伊勢崎市を地質図で見ると、赤城山の岩屑なだれによる梨木泥流が作った伊勢崎市北西部の起伏のある多田山や峰岸山などの「流れ山」、伊勢崎市東部の渡良瀬川により形成された大間々扇状地、伊勢崎市南部の利根川によりつくられた伊勢崎台地・広瀬川低地帯の3つに分けることができる。

つまり、伊勢崎市は赤城山・利根川・渡瀬川でできていると言え、市内で確認される遺跡は、地質図に応じた分布がうかがえる。伊勢崎市の歴史は、赤城山・利根川・渡良瀬川と大きく関わっている。

【赤城山が及ぼした影響】

⇒赤城山の東麓から南東麓には、20万年前から30万年前の水蒸気爆発によって赤城山の山体崩壊がおき、大規模な岩屑なだれの梨木泥流が発生した。その堆積物が伊勢崎市北西部の粕川右岸の峰岸山、多田山、などの「流れ山」として点在して、起伏のある地形を作り出している。

流れ山には、巨大な輝石安山岩が露出して、それを墓石の石材として利用していたと考えられる。

【利根川・渡良瀬川が及ぼした影響】

⇒渡良瀬川はかつて伊勢崎市内を流れていた。赤城南麓を南西方向に流れていた「古渡良瀬川」は流れを変えて、5万年前頃に伊勢崎地域の桐原面、2万年前頃にみどり市から太田市地域の藪塚面の新旧2面を持つ県内最大の大間々扇状地を形成した。大半が伊勢崎市内となる大間々扇状地桐原面は、扇央部で男井戸やあまが池など湧水が集中する。湧水周辺やその下流域には、人々が生活を営み、豊かな水資源を利用した水田が続いていた。農業が発達した伊勢崎市は経済的に発展し、有力な豪族が住み、ヤマト王朝との関りも深くなっていったと考えられる。

また、利根川の流れによって古墳の材料である石材を運搬しやすいという利点もあったのではないか。

以上のことから、伊勢崎市は赤城山、利根川、渡良瀬川などの地形的な特徴から大きな影響を受け、また農業が発達したことによって、有力な豪族が住み、権力を拡大させ、古墳が多くつくられたと想像できる。

まとめ

伊勢崎市には、お富士山古墳を代表としたヤマト王権とかかわりのあると考えられる長持形石棺が発掘されたことから、大きな力をもった豪族がいたことが分かった。

そして、地形に恵まれた群馬県、伊勢崎市は、その他多くの豪族がいたと考えられる。

今回、自分の住む伊勢崎市の古墳を調べていくうちに、伊勢崎市だけでなく、群馬県全体の歴史的な資源の多さに驚かされた。

このような魅力のある伊勢崎市、群馬県をもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

最後にこの調査にご協力いただいた赤堀歴史民俗資料館の学芸員の方に感謝を申し上げます。

参考文献

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館(2021年8月11日見学)

伊勢崎市お富士山古墳(2021年8月10日見学)

デジタル版「東国文化副読本」 URL <http://2021gunmatougoku/top.html>

伊勢崎市ホームページ URL <https://www.city.isesaki.lg.jp/shiseki>

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館 リーフレット